

わたしたち、社会福祉法人玉柏会は、地域社会の中で「ともに生きる」ことによる「しあわせ」を目指していきます。



玉 柏 会



令和2年12月12日 開催

第46回 社会福祉法人 玉柏会 創立記念式典 (理事長 海野和雄)

＜特集＞ 『コロナ禍』での活動報告 ～工夫を凝らして楽しんでいます～

目 次

理事長より「密を求める心」	2
あゆみの箱様より / 特集：コロナ禍での活動報告	3
特集：コロナ禍での活動報告 奥原荘	4
特集：コロナ禍での活動報告 奥原荘	5
特集：コロナ禍での活動報告 かりん・かしわ	6
特集：コロナ禍での活動報告 みすず・オークリーブス	7
玉柏会創立記念式典 / 川柳大会 / 相談支援	8



社会福祉法人 玉柏会

本部 奥原荘 みすず かりん
かしわ寮・すずらん・オークリーブス

〒424-0301

静岡県静岡市清水区奥原362番地
☎054-394-0311 FAX 054-394-0312



「密を求める心」

いつもと違う空気の中で、令和3年が明けました。新型コロナの第3波が押し寄せています。緊急事態宣言の神奈川・愛知にはさまれた静岡県でも、コロナ変異株の感染事例が見つかりました。私達は、ただただ愚直に玉柏会感染防止マニュアルを一人々々が実行するのみとの決意を新たにしています。

毎年12月には玉柏会の創立記念式典を行います。昨年12月には第46回目となりますが、例年と異なりご利用者のご家族や地域の皆様、協賛企業の皆様にはご参加を控えて戴き、ご利用者と職員によるごく内輪のイベントと致しました。私は式典でご利用者に次の様な話をしました。

『コロナ禍で皆様も面会や外出、交流やいろいろな行事が制約を受けて大変不便な思いをされていると思います。命と体を守るためとはいえ、心苦しい限りです。今が我慢のしどきです。皆で協力して、工夫して耐えていけば、コロナを克服してきっと良い事が待っています。それを信じてニヤリほっとの気持ちを持ち続けましょう。』

職員の間でも今年は親睦の機会が大幅に減りました。そこで全員参加の川柳大会を開くことになりました。コロナ禍での生活を如実に表わした秀逸な句が沢山ありました。『いつ帰る？ コロナに聞いてと 今日もまた』実家を離れて仕事をしている家族間の心情が響いてきます。

『ひきこもり 昔は負い目 今推奨』風刺がピリッと効いていて思わず笑ってしまいます。

『密を避け 心の中で 密求め』これは素晴らしい句だと思います。

昨年6月の第10号会報で紹介した山極寿一霊長類学者の言葉『人類は多くの人とつながることが幸福への道だと信じていた。感染を防止するために孤食を奨励され移動を制限される今日の事態は、まさに人間の根源的な欲求を押しつぶす』に共通すると思います。好企画の川柳大会でした。

人と人との出会いは、挨拶から始まります。日常のおはよう、こんにちわの挨拶。そしていろいろな声かけがそれに続きます。empathy 共感性という言葉が今、非常に大切だと思います。玉柏会の理念「～し合う」という共生(ともいき)の源は、この共感性にあると実感しています。ニヤリほっとの活動は、コロナ禍の制約の多い今だからこそ、その存在意義を発揮します。

最後に正しく怖れることが今大切なのではないのでしょうか。科学的知識と事実を直視して感染対策を遵守していく事が肝要です。一方で都合の良い我田引水の楽観主義は、排除する必要があります。この様な反知性主義が差別や偏見を生み出していく事を肝に銘じておきます。

以上



社会福祉法人玉柏会
理事長

海野和雄

一般社団法人 あゆみの箱 様より 加湿空気清浄機をご寄附いただきました

この度、一般社団法人 あゆみの箱様より、当法人に加湿空気清浄機をご寄附いただきました。

一般社団法人 あゆみの箱様は、外食チェーンを幅広く運営されている愛知県岡崎市のタニザワフーズ株式会社様が設立された法人で、今回は社会貢献活動の一環としてご寄附をいただきました。

頂きました加湿空気清浄機は、当法人の就労継続支援B型事業所『みすず』にて、ご利用者や職員のために大切に使用させていただきます。
どうもありがとうございました。



【特集】

コロナ禍での活動報告 ～工夫を凝らして楽しんでいます～

みんなで余暇への我慢と方法を考えた一年でした。普段から楽しみにされていた行事や外出は、延期や中止となってしまう、ご利用者から『いつになったら出かけたり、家族に会えたりするの?』という声や、職員から、『もっと荘内で楽しめることを考えよう、できることは?』という声があがり、荘内でもっと楽しめる余暇や活動を各グループごとに考え実行しました。8月から食事の外出を始めましたが、感染の危険が少ない所へ出かけることを第一に考え、感染対策しているお店を懸命に探し、実施しました。一時帰宅など我慢していただく形で大変申し訳ありませんでしたが、コロナウイルスを避けることはできています。

それでは、各グループの活動をご覧下さい。

支援課長 齋藤雅志

自閉症の方が多い男性Aグループ。
グループのみなさんは活動のひとつとして、毎日天気の良い日はウォーキングに取り組んでいます。穴原地区は自然豊かで静か、お散歩にはすごく良い環境です。

そんな活動を続けているうちに、ただのウォーキングだけではもったいない! ということで、秋からハイキングに挑戦しています。主には島田市の伊太和里の湯からスタートし、智満寺から双子山、東院寺まで歩きます。そして、今月はずいぶん島田中央公園まで歩くことができました。

もちろん無理は禁物なので、公用車が各チェックポイントで待機、無理せず車を使い休みながらのハイキングです。この活動は平日ですので登山者とはほとんど出会いませんのでコロナ禍の中でも安心して実施できます(密はありませんが、もちろん消毒は徹底しています)。またご当地の美味しいものをテイクアウトしてお昼ご飯に食べることもご利用者のみなさん楽しんでいただいています。

この活動を始めてから、とても快活になられたご利用者もいらっしゃいますし、安眠にも繋がっています。しかしハイキングは危険もつきものなので、天候や体調、コース設定、装備などには配慮しています。1月は智満寺で初詣をすることができました。今年も安心安全なトレッキングが楽しめるように祈願させていただきました。

《男性Aグループリーダー 牧田孝行》



森林浴しながらハイキング。大自然の中で心も体もリフレッシュ! できました





穴原荘 男性Bグループ

こんにちは！男性Bグループでは、余暇の際「手洗い・消毒の徹底」と「3密を回避する」ため、小グループごとでの外出や施設内での食事会とさせて頂きました。食事は人と人との間隔を十分にとり、換気とエアコンにて室内の環境も保って行うように致しました。12月の余暇では、例年のクリスマス外出を「三保園ホテル」さんの宴会場にて実施致しました。豪華なコース料理に皆さん大変満足された様子で、のんびりとした時間も過ごす事が出来ました。

施設内の余暇では、穴原荘グラウンドの一角に新しくできたあずまやにてバーベキューを行い、新年が明けた1月には皆様の健康とご多幸を祈願して新年会を実施しました。

交流ホームで作った具沢山の豚汁と一緒に寿司やメンチカツ・唐揚げなどを召上って頂いています。また、気分転換を図る活動としてバスでのドライブの他、DVD鑑賞や足浴など室内でリラックスできる活動に取り組みました。

まだ感染症に注意しなければならない時期が続きますが、これからも楽しく健康に過ごせるような支援を心掛けていきます。

《男性Bグループ生活支援員 生子桂裕》



新年会でのお食事

「足浴」気持ちよさそう



ホテルのコース料理に大満足！



4月 映画鑑賞



7月 B・Cグループ
合同ドライブ



8月 スイカ割り大会

穴原荘 男性Cグループ

男性Cグループでは、新型コロナ感染予防として、出来るだけ荘内で活動するように心がけていました。

ご利用者のストレスが貯まらないよう、グラウンド歩行や荘外歩行などで、ストレスを発散していただきました。

毎月の余暇活動では、荘内もしくは、感染のリスクが少ない外出をしています。

- R2. 4月：多目的室で映画鑑賞
- 5月：グラウンドでピクニックの予定でしたが雨天の為、荘内でお弁当
- 6月：ラーメンの調理体験
- 7月：男性Bグループと合同でドライブ
- 8月：スイカ割り大会
- 9月：かき氷
- 10月：男性Bグループと合同でBBQ
- 11月：サファリパークヘッドライブ
- 12月：クリスマスパーティー
- R3. 1月：ラーメン調理体験

《男性Cグループ生活支援員 秋山隆之助》



12月 X'masパーティー



1月 ラーメン調理体験



シャボン玉
飛んだ♪

穴原荘 女性Bグループ

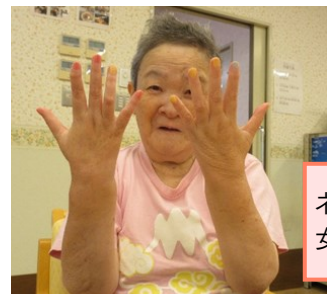
新型コロナウイルスが知られ1年が経とうとしています。一向に見通しが持てない中、なんとかご利用者に楽しみを持って生活してもらうこと、ご利用者に季節感を味わってもらうこと、そしてなにより、笑顔でいてもらうことを考え過ぎてきました。その中でも評判の良かった取り組みを紹介させていただきます。

まずは「縁日気分を味わって頂きたい！」という支援員のアイデアでチョコバナナと一口カステラづくり。天気の良い日には外の風にあたり、気分転換。ついでに童心に帰ってシャボン玉。青空に飛んでいくシャボン玉を眺めるのは大人になってもなかなか楽しいものです。自然と体も動いて案外運動になりそうです。それから女性ですから、おしゃれも気にしなくてはなりません。毎週一回行っていた爪切りに加えて、ネイルを行うことにしました。塗った後の満足げな顔をみて支援員もうれしくなっちゃいます。それからクリスマスの日はみんなでちょっぴりコスプレ(?) 日常に当たり前に御利用者の笑顔があるように。これからもアイデアどんどん募集中です。

《女性Bグループリーダー 川口香里》



チョコバナナ
できたかな？



ネイルで
女子力up!



酢飯に具を混ぜて…

穴原荘 女性Cグループ

ハンドマッ
サージで
女子力up!



穴原荘のご利用者は食べることが大好きです。女性CGでは前年度よりオープンレンジやお鍋等を購入し、ご利用者の調理実習が充実するよう、準備をしてきました。

そんな中、コロナウイルスの流行。外出制限が行われる中、調理の余暇活動ができたことは、まさに不幸中の幸いでした。

今回は今年度行った調理実習の一つを紹介します。1月の調理実習では「いなり寿司作り」を行いました。酢飯を作る行程ではご飯の入ったボウルを回し、班の皆様で協力して酢飯を作るご利用者の姿が見られました。油揚げに酢飯を詰める場面では、手で器用にご飯を入れる方、スプーンを使って頑張って入れようとする方、詰めすぎて油揚げが破れてしまう方など、ご利用者の個性と笑いが溢れる余暇となりました。ご自分で作成したいいなり寿司の味は格別だったご様子で「もっと食べたい。おかわりある？」と言うご利用者もいらっしゃいました。

まだまだ終息の兆しが見えないコロナウイルス、ご利用者から寂しそうに「いつコロナ終わる？」という質問を受ける度に胸が痛みます。少しでも皆さんが楽しめるような活動をこれからも職員一同全力で考えますので、ご利用者の皆様、もう少しだけ頑張らしましょうね!

《女性Cグループ生活支援員 長谷川未紗》



詰めて…出来上がり!



個室を貸し切って
外食!



作業風景

私が入社して1年、右も左もわからない中、かりんでの作業や余暇活動を通し、自分自身も楽しみながら、ご利用者の沢山の笑顔を見付ける事が出来ました。

余暇活動では感染症対策を最大限行い、外食へ出かけました。2、3グループに分かれて、密にならない様にしています。10月には中華、11月は和食とご利用者の気分転換にもなっています。グループ分けした事でタッチパネルによるメニュー選択等の意思決定支援も、時間を掛けて行う事が出来ました。穴原荘では食べられないメニューもあり、とても喜ばれていました。

1月には、みすず事業所とのリモート新年会を行っています。新年会ではお互いのご利用者がジュースで乾杯。途中で回線が切れるハプニングもありましたが、今後も色々な形でみすずとの交流を深めていく予定です。

現在、作業ではコロナの影響を受けずに、受注作業を継続して行っています。また、自主製品では荘内のみの販売をしています。

コロナ禍で不安に感じているご利用者もいらっしゃいますが、今後も『安心安全』な支援を行い、保護者様とも面会日にお会いできる日を楽しみにしています。

《就労グループ生活支援員 高橋郁巳》



収穫したお芋で
作る焼き芋は
格別です!



第二かしわ寮の大室様、渡辺様のお二人は、毎年畑で色々な作物を作り、毎日それを眺めてお世話をする事が日課であり、また生きがいとなっています。ある時、畑で実ってきたさつま芋を眺めながら大室さんが『上手く出来たら、みんなで焼き芋を食べたい!』と言。

“みんなで”というところが、優しい大室様らしくて微笑ましく思いながら、その希望を叶えるべく、今回焼き芋作りをサポートさせて頂く事としました。

朝から芋を洗い、新聞紙にくるみ、水を含ませてホイルでくるんだりした工程もテキパキと進めて頂き、いざ熱くたぎった炭火に芋を放り込むと渡辺さんと共に片時も炭火のそばを離れません。

そして気付けば、その様子を見物しに芋が焼ける前から第一・第二かしわメンバーも1人、2人と集まってきていました。

心配していたお芋もうまく焼き上がり、皆さんで美味しく頂きました。みんな大室様、渡辺様へのお礼をそれぞれ口にしていると、『みんなにありがとうって言われるとまたあげたくなる。』と大室様。コロナ過で外出も一時帰宅もままならず寒空の中でしたが、皆さんで炭火を囲んでお芋を食べて、身も心も焼き芋の様にホクホクとした温まるひとときをかしわ寮の皆で共有出来ました。

《第一・第二かしわ寮 世話人リーダー 土井友員》





愛護ギャラリー展
作品作成風景



就労支援特化の事業所として、「作業活動」が中心となりますが、支援上の組み合わせにおいては、「働く」「暮らしていく」「楽しむ」等、様々なこととなります。その中でのコロナ禍における影響も様々であり、「不便」ではなく「工夫」への転換をしています。

まずは、メイン活動の作業工夫ですが、密を少しでも避けるための作業配置として、多目的室も使用しました。この「分散配置」で作業種類が増えての稼働対応やご利用者の作業への集中に向けた「環境作り」に繋がりました。

日々の暮らしていく中では、年度計画においても季節を感じて頂く行事があります。さすがに外出は難しかったですが、事業所内での楽しみ企画として春・夏に続き、「季節の活動」(秋)・(冬)と支援員の工夫で行うことが出来ました。

また、毎年参加している愛護ギャラリー展の出展として、WEB開催の決定により画像のみのエントリーをしました。開催場所への持ち運びがないのであればと、画材を工夫したアートとして、本来の画用紙の枠から解放された絵画に挑戦して頂きました。日々、様々な工夫で現在を乗り切っています。

《みすず管理者 鈴木利往》



季節の活動・秋



季節の活動・冬



充実した屋内活動



屋外でも
元気いっぱい

オークリーブスは通所施設ということもあり、普段、ご利用者は学校に行ってから来所します。そして、保護者様や外部の関係者の方とも毎日のように関わりがあります。そのため、職員が感染するリスクが入所施設に比べ高いこともあり、法人内での感染を広げてしまうリスクもあることから、コロナ禍では特に気を付ける必要があると日々感じています。

オークリーブスではこのコロナ禍を過ごすにあたり、外出先を選ぶ際も屋外で密にならない場所を選び、手洗い、うがい、消毒、マスク、検温などの感染症対策を確実にしながら活動を行いました。外出活動の際も、制作活動に繋げるために、松ぼっくりやどんぐりなどの素材集めに行くなど目的を持ち、楽しく活動することができました。

また、屋外での活動だけでなく、施設内での活動の充実も図りました。感染症対策上できなかった調理活動や買い物などの活動、制作活動や自立課題に加えて、室内で余暇を過ごすための玩具類を購入することで、室内での集団・個別活動の幅も広がり、このような活動をバランスよく取り入れながら過ごすことができたと思います。

《オークリーブス支援員 深田貴行》

今回の創立記念式典はコロナウイルスの影響で保護者様をご招待することが出来ず、寂しい思いをしているご利用者も多くいらっしゃいました。

そんな中、皆さんで集い、栄原荘の46回目の創立を祝うために、フォーマルな服装に身を包み、荘歌の斉唱や一年間頑張ったご利用者や職員の表彰を行い、栄原荘の益々の発展を祈願しました。表彰されて誇らしい様子や嬉しそうにしているご利用者の姿は、支援の原動力にもなるなど、毎年感じます。

式典後のアトラクションでは、太鼓の演奏や新しく仲間入りしたご利用者の紹介や新人職員の自己紹介、抽選会などを行い大いに盛り上がりしました。

もちろん豪華なお弁当や紅白饅頭は例年通り用意させていただき、皆さん喜んで美味しいと食べて下さっていました。来年度は、保護者様とまた一緒にお祝いできることを心から願っています。

《創立記念式典担当支援員 水野佑花》



ご利用者の皆さんを代表し、金田真琴様がこれからの抱負を発表しました



写真中：ご利用者の表彰
写真右：栄原だいに披露!

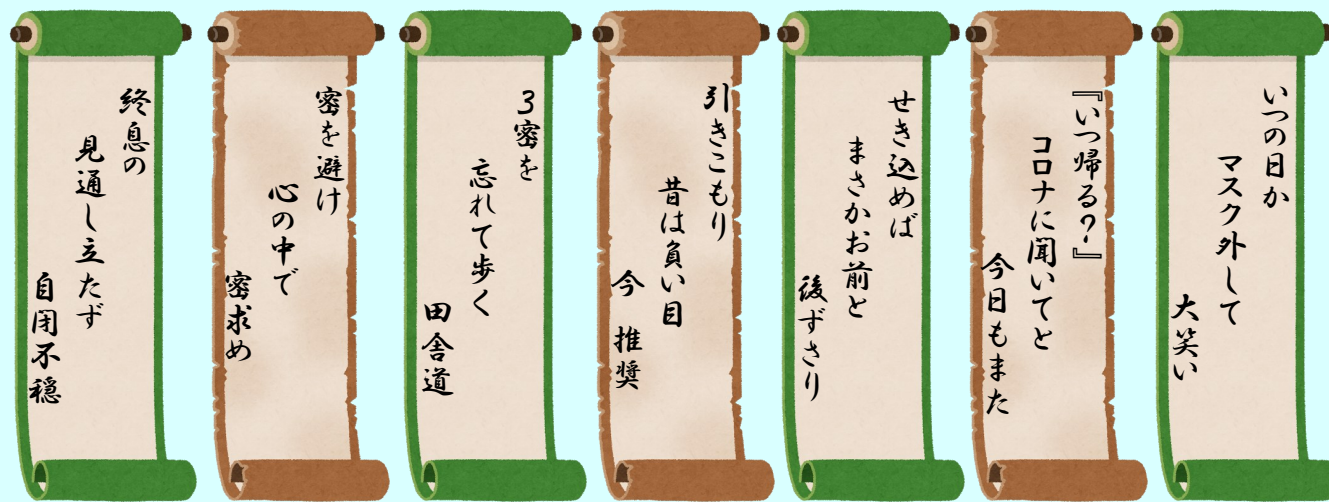


玉柏会 “川柳大会”

優秀賞

特別賞

この度は、コロナ禍で頑張る職員全員を対象に『新型コロナに関する川柳』を募集しました。皆さんも一緒に笑って、免疫力をUPして、新型コロナを吹き飛ばそう♡



ご相談は、下記の電話へどうぞ!

電話

054-340-3565

FAX

054-340-3566

E-Mail

endo@tamagashikai.com

受け付けます

お悩み・相談なんでも

ホッとする食べ物?

問 犬が食べると、

頭の体操♡わかるかな?

【この記事に関するご意見やお問い合わせは】

電話: 054-394-0311

FAX: 054-394-0312

E-mail: sisiharaso@po4.across.or.jp

QRコード



玉柏会では皆様のお声をお待ちしております。

すずらん

